

鳥羽市にも、入場料無料で多くの集客が見込める仕組みが必要だと思えます。たくさんのかたがた来ていただければ、その中から既存の観光施設やホテルを利用するかたもあるだろうと思えます。

鳥羽市にも、入場料無料で多くの集客が見込める仕組みが必要だと思えます。たくさんのかたがた来ていただければ、その中から既存の観光施設やホテルを利用するかたもあるだろうと思えます。

鳥羽市を訪れる観光客数は、平成20年までは少しずつですが増加してまいりました。しかし、その数は平成21年から減少に転じています。高速道路の無料化などの影響により、伊勢市や熊野地方への観光客が大幅に増加している中で、鳥羽市は苦戦を強いられている訳です。増加しているのは、おかげ横丁、伊勢神宮、そして海水浴場などであり、いわゆる入場料が無料のところといえるかもしれませ

さて、鳥羽市の海の玄関口である佐田浜にマリントウン21計画がスタートして、早15年になります。今まで投資ばかりのこの計画も、いよいよ利用できる段階に入ります。来年4月には、新しいマリントーミナルが完成し、供用される予定となっています。また、これに伴って廃止される現港湾センターの跡地などを活用する方法を考え、実行する時期にきております。現時点におきましては、鳥羽駅からマリントーミナルまでの道筋をエレベーターなどの設置をはじめとして、バリアフリー化し、雨天にも困らないようにシェルターを設けるなど、利便性の向上に努めることにしています。

産物、農産物を常時販売できる市場を中心とした施設を造っていきという考えが有力になってきております。いわば、入場料のいらぬ施設でもあります。この市場についても、各地で行われているように、会社や企業が出店する方式、漁師さんや農家のかたが個人的に出品する方式などいろいろなやり方があります。市外の産品を扱うのか、市内産だけに限定するのか。大きくて立派な建物を建ててスタートするか、小さくても素朴なタイプが良いのかなど、今後、考えていかなければならないことが多くあります。

佐田浜に市民や観光客の笑顔があふれる日を楽しみにしています。



「褒めること」について

桜井章一さんの著書『負けない技術』のなかに、次のような言葉がありました。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.99

「『褒めてもらおう』という人間関係は卑しいものだ。褒めてもらいたいがために、自分の好みではなくても無理に取り繕って、褒めてもらえそうな行動をしようというのだから。／会社の上司、先生、親に褒められたいためにやる。そんな姿勢の子が増えたから、その『褒め殺し社会』から落ちこぼれた子たちがいろいろの事件を起こすことになる。褒められたがために

がんばった人たちが世の中の組織の上に立っているから、問題も起きてくる。／今の社会で生きる人すべてに言えるのは、褒められることを求めている一方で、とめどなく人の悪口を言っている、ということだ。／褒められた人間は、褒められなくなる。と文句ばかりつけるようになる。それで世の中はクレームだらけになっていく。だったら、褒める事、褒められることなど求めず、人の悪口を言わないようにしていけばいい。／私は道場生たちを褒めることはしない。少なくとも伝達手段として褒めるという行為はしない。状態の良くなった道場生を見て、『よかつたね』というのがある。それは褒めるのではなく、その過程を認めてやる、ということだ。『キミは自分の力でよくなったんだね』ということを伝えるようにしている。だが、けっして褒めたりはしない。』

私はこの文章を読んで、長年、褒めることについて、心の中でもややもやしたものがありましたが、スッキリしました。